

世界遺産登録が地域に及ぼした影響

○柴崎茂光・竹内泰志(岩大)・山田芽実(元岩大)・庄子康(北大)・永田信(東大)

はじめに

2008年10月現在、日本には、世界遺産が14箇所(自然遺産3箇所、文化遺産11箇所)が存在する。そして、世界遺産ブームと地域振興に結び付けようと、日本各地で世界遺産登録の推進活動が行われている。その一方で、『ガラパゴス諸島』が、移住者の急増やそれに伴う環境悪化によって、2007年に危機遺産リストに記載されるなど、世界遺産がもたらす負の側面が近年顕在化してきた。

本研究では、白神山地(青森県側)を対象として、白神山地(青森県側)で実施されている観光業が地域社会に及ぼす経済・社会的影響を把握することとした。具体的には、①直接的経済効果を、深浦町十二湖地区(遺産地域外)において測定するとともに、②西目屋村暗門地区(緩衝地域)を対象に、エコツーリズムの実態を明らかにすることとした。

調査地・調査方法

白神山地は、青森県と秋田県にまたがる、総面積が約13万haの山岳地帯の総称であり、核心部の原生的なブナ林の内約1.7万haが1993年に世界自然遺産として登録された。遺産地域は、核心地域とそれを取り囲む緩衝地域から構成される。暗門地区には暗門の滝があり、遺産地域に容易にアクセスできる場所として人気があり、エコツーリズム業が白神山地において最も盛んに行われている場所といえる。また十二湖地区には、33の湖が存在し、遺産登録地域外とはいえ、白神山地(青森県側)の主要な観光地となっている。

暗門地区については、2007年7~8月に実施した観光客へのアンケート調査(有効回答472名)や、同年に実施したガイド業者(5社)への聞き取り調査結果を活用した。十二湖地区については、2007年8月に観光客を対象としたアンケート調査の調査結果を用いた。なおアンケート調査は、対面式(有効回答586名)、郵送式(有効回答152名)の2種類実施した。

結果

(1) 直接的経済効果の推定

観光客の属性は、個人客(有効回答425名)とツアー客(有効回答161名)で大きく異なった。具体的には、①ツアー客の方が、遠方(おもに関東)からの高齢者が中心であり、また観光地も十二湖以外を周遊していた。②深浦町で観光客が消費する金額は、個人客全体で4.6億円なのに対して、ツアー客の場合には、1.4億円に留まった。

(2) エコツーリズム(ET)の実態

①ETの84%が11名以上の大規模なグループではあるが、整備されたコースを利用し、環境への影響を小さく抑えていた、②ETガイドの狙い通りに暗門地区に対するET客のイメージが変化しており、一定の環境教育効果があった、③個人旅行でETを利用する客(個人ET客)の方が、パッケージツアーを利用するET客(ツアーET客)に比べて、村内宿泊割合が高く、経済波及効果が大きい、④個人ET客の73%は、自然・環境に対して高い意識を有している、⑤ツアーET客の中には、『ガイドの声が聞こえない人がある』といった不満を抱えている人がある、⑥旅行代理店の要望により、ETガイドはツアーET客を大人数・短時間で案内しているが、提供できるガイド内容にガイド自身が不満をもっている、⑦現状では個人ET客の総数が少ないため、ガイドにとって単位時間あたりの経済的効率性が高くなるのはツアーET客であること、等が判明した。

(連作先：柴崎茂光 shiba@iwate-u.ac.jp)